

麻しん(はしか)の 予 防 接 種 を うけましよう

Q 麻しん(はしか)とは…

A 10～12日の潜伏期の後に38度を越す発熱と発疹がみられる感染症です。

感染力は極めて強く、インフルエンザの4～6倍といわれており、患者と同じ部屋にいただけでも感染することがあります。

麻しんは合併症を起こしやすく、特に乳幼児においては、肺炎などの併発により死亡することがあります。

また、乳幼児以降に麻しんにかかった場合であっても、脳炎などを併発し、死亡したり、重い後遺症が残ることがあります。

また、麻しんにかかってから、数年から数十年経過した後に、亜急性硬化性全脳炎という重い脳炎を発症することがあります。



麻しんには予防接種が有効です

麻しんには特異的な治療法がありません。

麻しんのウイルスは空気中を漂うため、一生麻しんのウイルスに接触しないということは不可能です。

予防接種により免疫をつけ、感染を予防することが有効です。

かかる前の予防が大切です。

麻しんの予防接種は 2回接種が必要です

1回の予防接種では 免疫が十分につかないことがあります

予防接種を2回受けることで、より確実に、強固な免疫をつけることができます。

過去に麻しんの予防接種を一度受けた方も、忘れずに2回目の接種を受けて下さい。

小学校就学前1年間は、麻しん風しん混合ワクチンの予防接種を無料で受けることができます（通常はおおよそ1万円くらいかかります）。

現制度では、小学校就学前1年間は、麻しんの予防接種を無料で受けられる最後のチャンスとなりますので、この機会を逃すことなく予防接種を受けて下さい。



実は隠れた風しん（三日はしか）対策です

風しんは成人になってから患すると、症状が重いことが知られています。特に妊娠初期などは、感染に注意する必要があります。

現在、麻しんの予防接種は、麻しん風しん混合ワクチンを使用しますので、同時に風しんの免疫もつけることができます。

どちらかの病気にかかったことのある方でも接種可能です。



定期の予防接種は お住まいの市町にある 医療機関で受けることができます

予防接種の際には、かかりつけ医やお住まいの市町の予防接種担当窓口にご相談下さい。